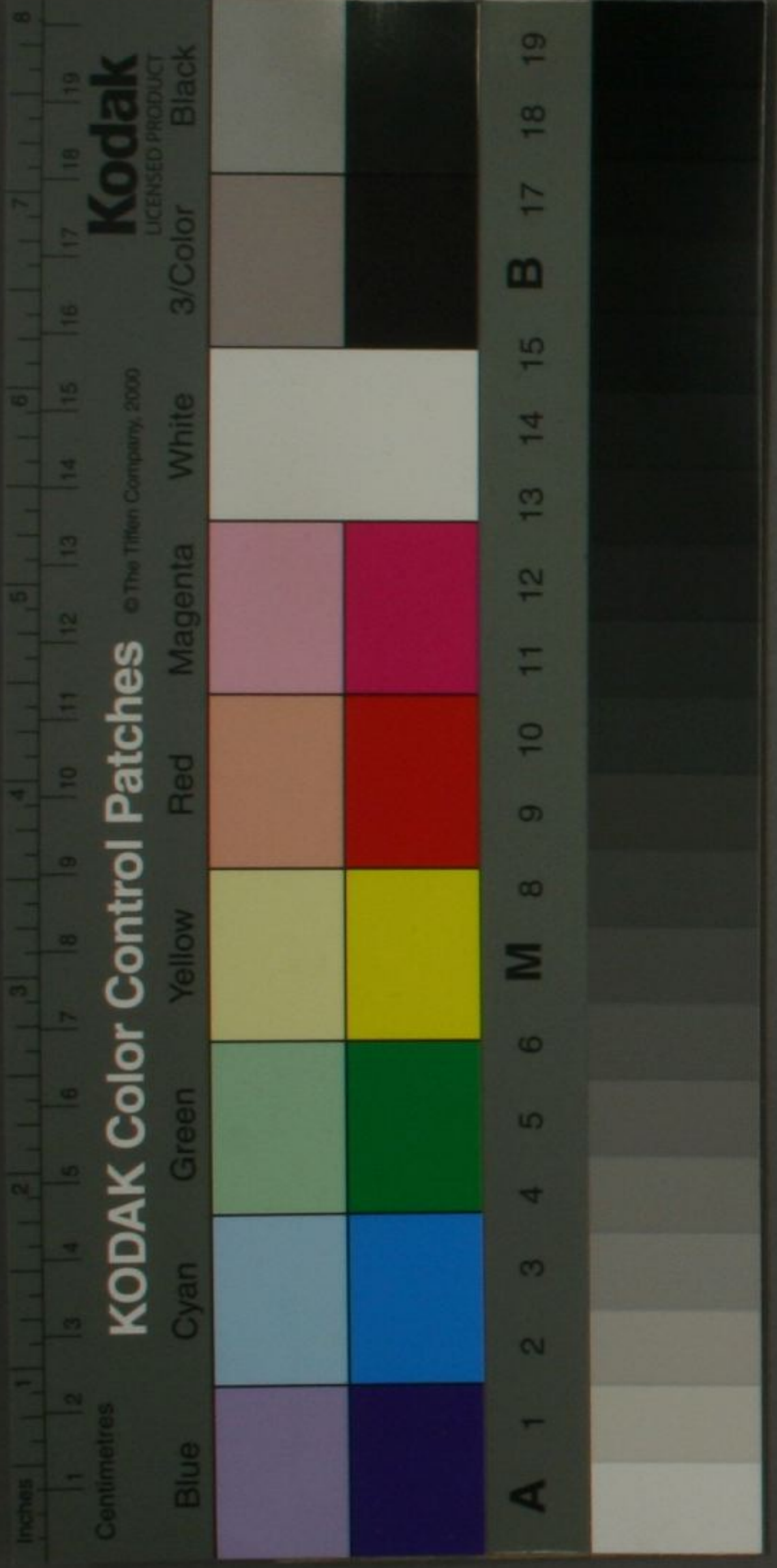


114
A 993



實業上ノ事タル單ニ理論ニノミ拘泥スヘカラス
 又重ニ實際ニノミ偏倚スヘカラス理論ト實際トニ基キ
 之ヲ永遠ノ利益ニ考ヘ時ノ趨勢ニ從ヒ急劇ニ失セス漸
 次ニ施設誘導スルニアラサレハ為メニ所謂前ヲ矯メテ
 牛ヲ殺スノ悔ナキヲ期セム今之ヲ府下ノ狀況ニ徴スル
 ニ其發達シテ今日ニ至リシ跡ヲ見テ之ヲ經濟ノ理論ニ
 律スレハ其常軌ヲ逸シ之カ矯正ヲ要スルモノ一ニシテ
 足ラサルヘシ然レトモ退ヒテ之ヲ考フレハ勢ノ馴致ス
 ル所知ラス知ラス爰ニ至リシモノニシテ是レ或ハ其今
 日ノ隆盛ヲ来タセシ因由ナラサルヲ保ヤス故ニ其利ノ在
 ル所ニ從ヒ徐々ニ其害ノ伏スル所ヲ除クノ方針ヲ執ラ
 サレハ漸ク進ミテ今日ニ至リシ實業界ラシテ挫折セシ



ムルノ悲運ヲ招ク恐レナキニアラス今府下實狀ニ據リ
左ニ一二身見ヲ陳述ス

既設會社保護ノ事

昨廿九年末府下ニ於ケル高工業株式會社ノ數ヲ見ルニ
商業ニ八十五ニシテ其資本金額三千四百四十三萬圓
此冊込金額一千四百六十四萬圓工業ニ百十七ニシテ
其資本金額三千三百六十五萬圓此冊込金額二千十二
萬圓ナリトス即チ商業ヲ合セハ其會社數二百二ニ
シテ其資本金額六千八百九萬圓此冊込金額三千四百
七十六萬圓ナリ而シテ是レ單ニ高工業株式會社ニ係
ルモノ、ニニシテ其合資、合名、及農業諸會社、諸銀
行ハ之ヲ除ケリ故ニ此等ヲ總計スレハ其資本金額蓋シ
一億圓ノ上ニ出スヘシ

右ノ如ク算ニ高工業株式會社ニ於ケルモノ、ミニテモ
其資本金額六千八百有餘萬尚ホ其後設立セシモノヲ合
計スレハ殆ント七千萬圓ノ巨額ニ登ルヘシ而シテ此等
株主ノ多クハ府下ノ者ナルヲ見レハ一概ニ言フヘカラ
サルモ府下唯一ノ財産ハ此株券其大部ヲ占ムルハ勢ノ
免カレサル所殊ニ所謂紳商ニシテ新タニ事業ヲ興シ之
ニ關涉スル者ニ至リテハ其名聲ノ此等社會ニ廣マルト
共ニ一身ニシテ種々ナル會社ノ重役トナリ巨多ノ株券
ヲ所有シ中ニハ其實力ニ幾倍シ其融通ハ一ニ其所有ノ
株券ニシテ巧ニ之ヲ操縦運轉スルニ過キサルモノアリ
而シテ一方ヨリ之ヲ觀察スレハ此等紳商ラシテ之ヲ為
スニ容易ナラズムル事實ナキニアラス即チ此等ノ者ノ
設立セル機關銀行トモ稱スヘキモノニシテ之ヲ例言セ

ハ其機關銀行ニ其株券ヲ抵當トシ金融ヲ求メ日歩二錢
ニ厘ノ利ヲ支拂フトスルモ年利ハ歩ニシテ其融通ヲ得
テ買得セシ會社株券ニ對スル利益配當ハ其事業ノ如何
ニヨリ是レ亦概言スヘカラサルモ多クハ一割以上ニ當
リ平均一割ト見ルモ差引キニ歩ノ利益アル割合ニシテ
其他株券賣買上ノ利得多ク況ンヤ其抵當價格ハ實價ハ
掛或ハ其特別ナル事情アルモノニ於テハ間々時價頂上
ニマテ及フモノアルニ於テオヤ
右ノ如ク一身ニシテ諸種ノ事業ヲ兼テ銀行モ亦其特殊
ナル機關トナリ浮動極リナキ株券ヲ抵當トシ貸附ヲ專
ラトスルカ如キハ各其業体及經濟上ヨリ見レハ共ニ其
宜シキヲ得タルモノニアラスシテ之カ救正ヲ要スヘキ
ハ明ナリト雖トモ退ヒテ危フレハ是レ府下商工業ヲシ

テ今日ノ域ニ至ラシメシ原由ノ一部ヲ占ムルモノナル
ヲ以テ之ヲ所置スル急劇ニ失スルカ如キコトアルトキ
ハ既ニ設立シテ現ニ其業ヲ經營セル諸會社ヲ始メトシ
銀行等ヲシテ其所ヲ失ヒ現ニ發達ノ途ニアル此等諸事
業ヲシテ中コロ失墜セシメ商工業上意外ノ現象ヲ來タ
スノ恐ナキニアラス固ト一利一害ハ救ノ免カレサル所
ナルヲ以テ之ヲ矯正スルト同時ニ之ヲ保護スルノ道ヲ
与フルハ當ニ講スヘキ所ナリト信ス
蓋シ我國ニ於テ諸會社等頻々興起シテ今日ノ狀況ニ及
ヒシモノ一時ノ投機ニ因リシカ、真實國力ノ發達ニ基
キシカ、銀貨ノ下落カ將タ戰後通貨ノ膨脹ニ原因セル
カ而シテ貨錢物價ノ騰貴ハ果シテ其何レニ歸スルカハ
人々見ル所ニヨリ其說ヲ異ニスヘキモ諸種ノ事實ニ連

レ諸事業勸興ノ其一因ラ占ムルハ明ナル所ナルハシ然
レトモ人ヲ以テ一朝之ヲ克制セントスルニ急ナルト
キハ他ニ其影響ヲ蒙ルモノナキニアラス故ニ政府ハ固
トヨリ經濟ニ關与アル機關ニシテ施設スル所アラント
スルニハ此際深ク利害ヲ講究シ徐々ニ其勢ヲ馴致シ之
ヲ救正スルノ方針ニ依ルハ甚タ必要ナルコトニシテ府
下ノ如キ前述ノ事情株券ヲ唯一ノ融通物件トセル時ニ
ハ後來真實ナル商業手形ヲ獎勵スルト同時ニ尚ホ漸次
其事情ノ薄ラクニ至ルマテハ保証株券ノ範圍ヲ廣クシ
信用アル既設會社保護ノ方法ヲ設ケラルハ今日ニ及
ヒシ府下商工業上ノ情勢已ムヘカラサルコトナリト信
ス

會社積立金ノ制限ヲ改ムル事

既ニ日本銀行ヲシテ諸會社株券保証貸附ノ範圍ヲ廣カ
ラシメントスルトキハ勢ヒ諸會社ヲシテ其基礎ヲ鞏固
ニシ其信用ヲ確實ナラシメサルヘカラス是レ固トヨリ
之レニ逆事スル重役ト其社員ノ如何ニアルヘキモ其身
元及財産ニ制限ヲ附スルカ如キハ到底行ハルヘキコト
ニアラサルヲ以テ他ニ其方法ヲ求メサルヘカラス按ス
ルニ商法第二百十九條第二項ニハ準備金カ資本ノ四分
一ニ達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクモ二十分一ヲ準
備金トシテ積置クコトヲ要ストノ條文アリ今府下ノ實
狀ヲ察スルニ前ニモ記述セシカ如ク其當事者ヲ始メト
シ其株主ノ多クモ真誠ニ其會社ノ利害興廢ニ心ヲ用フ
ル者少ナク其唯一ノ目的ハ株券ノ賣買ト利益配當ノ多
寡ノミニアリト言フモ不可ナキヲ以テ株主總會ニ於テ

モ只管配當ノ多カランコトノ^レ
波議ニ傾キ準備金ニ注意
スルカ如キ希有ノ事ニシテ其
備事者モ寧ロ内部ノ事實
ヲ隠蔽シ外面其多キヲ示サ
ントスルヨリ其準備金ノ如
キ特別巨額ノ利益ヲ得シモ
ノハ然ラサルモ其他ハ漸ク
法定ノ率ニ逆ヒ僅ニ其責ヲ
塞クニ過キス斯ノ如キ其準
備金ノ資本額四分ノ一ニ至
ルハ幾十年ノ後ニアルヤヲ
知ルヘカラスシテ是レ永ク
會社ノ基礎信用ヲシテ薄弱
ナル儘ニ経過セシムルニ異
ナラス故ニ或ハ急劇ニ失ス
ルノ懼ヒナキ能ハサルモ此際
該條文ヲ變更シ利益金ノ
十分ノ一或ハ其以上ラシテ
必準備トシテ積立テシムル
コト、セハ當ニ此等既設會社
ノ基礎信用ヲ鞏固確實ナ
ラシムルノミナラス又タ一方
ニハ株券ヲ目的トシテ安
ニ起業スルノ弊ヲ防キ抵當
トシテ貸付クル銀行者ヲ安

心セシメ而シテ甚シキ株券ノ
下落ナクシテ一般ノ氣風
ヲ改良スルニ於テ大ニ與リ
テカアルベシト信ス

貯蓄銀行資本金ノ制限ヲ改メ
検査法ヲ

嚴ニシ預リ金ニ注目スル事
貯蓄ノ事タル之ヲ現時ノ状
況ニ徴スルニ最モ之カ誘導
獎勵ヲ怠ルベカラズ特ニ
當府下ノ如キ近來諸種ノ事
業興起シ職工徒弟等益多ク
居住スルノ地ニ於テハ今ニ
シテ之カ道ヲ講セサレハ悔
ラ他日ニ遺スナキニ非ス故
ニ其機關ニ至リテハ是レ亦
最モ確實鞏固ナルヲ要ス而
シテ此事タル其性質上然ラ
ザルモナルヲ以テ既ニ發布
セラレタル貯蓄銀行條例ニ
モ他ト異ナリ嚴ニ之カ制裁
アリ然レモ其業ヲ興スニ容
易ニシテ其營業ノ如何ニヨ
リ危険ノ多キ恐リハ此業ニ
若クモノナキヲ以テ當ニ其

條例ノ嚴ナルノニ頼ルベカラスシテ常時ニ在リテ之
カ監督ニ亦之ニ伴ハサレハ或ハ其運轉ニ歸スルナキニ
非ス前年十月府下某貯蓄銀行破綻ノ如キ好例證トスベ
シ此業タル強ク資本金額ノ多寡ヲ以テ其確否ヲ判定ス
ヘカラザルモ其少ナキニ失スルモ愈之ヲ興スニ容易ナ
ラシメ却テ條文ヲ頼ミ利子ヲ競争シテ世人ヲ瞞着シ施
ヒテ其影響ヲ信用ノ確實ナルモノニ及ホスノ事實ナキ
ニ非ス故ニ此際該條例第二條ノ資本金三萬圓以上トア
ルヲ高メテ拾萬圓或ハ其以上トシ資本ノ大ナルト共ニ
益其責任ノ重キヲ知了セシメ去リニ之ヲ興スノ途ヲ杜
絶シ之ト共ニ其検査法ヲ嚴行スルハ最モ必用ナルベシ
元來此銀行ニ於テハ取締役ノ無限責任且ツ預金ニ對シ
供託等ノ制アリテ之ヲ實行スレバ外面更ニ其危濼ナキ

カ如キモ固ト其危濼ハ内部營業ノ有様如何ニ存在スル
モノニシテ預金運轉ノ方法特ニ抵当物如何ノ如キ席時
ニ在リテ最モ之カ監督ヲ要スルモノニシテ前記ノ事情
株券ノ盛ナル地動モスレバ此等銀行モ亦所謂事業家資
金吸集ノ機關ニ備ヘラル、ノ悞アルニ於テハ其抵当モ
或ハ他ニ擔保トナラザル株券ナルヤモ知ルベカラス而
シテ此等ヲ指摘シ席ニ之ヲ警戒スルニハ時々ノ臨検ナ
カルベカラス故ニ若シ大藏省ニシテ目今經費ニ之ヲ為
スノ餘裕ナキ時ハ隨時秘密ニ地方官ニ命令セラレ之ヲ
實施セシムルハ此業ノ為メ一日モ怠惰ニ附スベカラザ
ル事ナリトス且ツ其預リ金モ已ニ之カ拂戻保証ノ供託
シアルヲ以テ之ヲ憂フルニ足ラザルカ如キモ是レ其四
分ノ一ニ過キスシテ平時ニ在リテハ之ヲ以テ其取付ニ

應シ得ラルベキモ一朝事アルノ日ニ際シテハ之ニ安心
スベキニ非ス況ンヤ其所謂供託セシ金額ニ條例ニヨリ
自然ニ取付多キ後ナル毎半箇年末日現在預金額ニ依リ
シモノナルニ於テオヤ故ニ席時預リ金額ニ注意シ既納
ノ供託金額ニ比シ多少ニ從ヒ其率ヲ定メ隨時増託セシ
ムルノ法ヲ設ケ益之ヲシテ確實ナラシムルハ此業ニ於
テ必用ナルコト、信ス